WWFジャパン (公財)世界自然保護基金ジャパン 〒108-0073 東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル3F

Tel: 03-3769-1711(代) Fax: 03-3769-1717 www.wwf.or.jp

Press Release

2020年10月15日

世界のNGOと企業が プラスチック汚染解決に向けた国連協定発足を要請

- WWF、エレンマッカーサー財団、ボストンコンサルティンググループが新たに発表した共同レポートで、プラスチック汚染についての新たな国際協定を発足させることが、環境とビジネスの双方にとって望ましいことが示されました。国際協定は、既存の取組みを補足し、プラスチック汚染の根絶に向けた動きを加速させます。
- 世界の主要 30 社が、国際協定の発足を呼びかける宣言に署名しました。世界で問題解決にリーダーシップを発揮する他の企業にも、この呼びかけに参加することが推奨されています。
- 今後の国連会議で、国際協定発足に向けた交渉開始決定を議題にあげることが、期待されています。企業とNGOの双方が「これ以上時間を無駄にしてはいけない」と合意しています。
- WWF、エレンマッカーサー財団、ボストンコンサルティンググループの三者は、プラスチック汚染解決に取り組むための拘束力のある国際協定の発足を推奨し、国連加盟国に、そのための交渉を早急に開始するように呼びかけています。

昨日、世界の主要な企業が、プラスチック汚染の解決に向けて、既存の分散した規制や自主的な取組を補完する、新たな国連協定の発足を呼びかける宣言を行ないました。これは、WWFやエレンマッカーサー財団が、この重要な国際的な合意を呼びかけている動きを後押しするものです。

WWF、エレンマッカーサー財団、ボストンコンサルティンググループ(BCG)の共同レポート『<u>The Business Case for a UN Treaty on Plastic Pollution</u>(プラスチック汚染問題解決に向けた国連協定のためのビジネスケース)』によると、直近の5年間で自主的な取り組みや国の規制が倍増しているのにも関わらず、毎年1,100万トンという危機的な量のプラスチックが海洋に流出し続けています。早急に、既存の取組を、より意欲的なアプローチをとる統合されたものへと強化していく必要に迫られています。

レポートでは、プラスチック汚染解決のための新たな国際協定が、プラスチックにおけるサーキュラーエコミーの動きを飛躍的に加速させることが提示されています。共通の枠組みを構築することで、明確な方向性や条件を設定することができ、各国政府や企業に、確実に前進することを促します。レポートの著者は、国際目標と拘束力のあるターゲットを有する国際合意と、各国の行動計画や一貫性のある方策の双方が、政策を調和させ、投資計画を強化し、イノベーションを促進し、インフラ開発を調整するために必要であると主張しています。自主的な取組みは、市場のリーダーには変化をもたらしますが、産業全体で必要な変化をもたらすには、国際的に拘束力を持たせたアプローチも必要となります。

Amcor、Borealis、ダノン、H&M、マース、ネスレ、ペプシコ、テスコ、コカ・コーラ、ユニリーバ、ウールワースを含む世界の主要30社が、国連協定の発足を求める企業宣言を行ないました。この宣言は、「これ以上時間を無駄にしてはいけない」として、各国政府に、プラスチック汚染を解決するための新たな国際合意を発足させることを議論し、合意することを促すものです。

WWFインターナショナルの、マーケット・プラクティス・ヘッドのクリスチアーヌ・クロースは、以下のように述べています。

「ここ数年、プラスチック汚染解決を求める社会の声が大きくなり、これを受け、自主的な取組みを始めた政府や企業も出てきています。しかし、問題解決には、国際協定のもとでのステークホルダーのコーディネーションと世界的な後押しが欠かせません。企業は自社のサプライチェーンにおいてプラスチック汚染に対処する明確な責任を持っていますが、より広範で構



造的な改革が求められています。急速に拡大したプラスチック汚染の危機は、10年以内に解決させることができます。しかし、そのために、私たちが今、一緒に行動しなければいけません」

次回、第5回国連環境総会(UNEA5)にて、この国際協定を発足させる交渉開始について議論されることが、期待されています。既にUNEAでは、プラスチック汚染が世界的な問題であると認識されており、2017年のUNEA3では、プラスチック汚染を解決する既存の国際的な法的枠組みは分散していて、効果的ではないと結論付けています。今回のレポートと企業宣言の双方が、交渉の義務付けを早急に決議することと、それに続けてプラスチック汚染解決のための新たな国際協定を一刻も早く発足させることが必要であると強調しています。

エレンマーカーサー財団の創始者、デイム エレンマッカーサーは、次のように述べています。

「私たちは、近年、企業や政府が、プラスチック汚染を解決するために、重要な取組みをするのを見てきました。500以上の組織が、ニュープラスチックエコノミー・グローバルコミットメントに署名し、プラスチックごみや汚染を作り出さないプラスチックのサーキュラーエコノミーの実現に向けて、明確なターゲットを設定しています。しかし、こういった自主的な取組みだけでは、プラスチック汚染を解決するのに十分ではありません。私たちは、各国政府や政策決定者に重要な役割があると信じています。プラスチックのサーキュラーエコノミーのビジョンを有した、拘束力のある国際合意により、大規模なプラスチック汚染に対し、確実に国際的に統合された対応をすることができます」

ウェブサイト http://www.plasticpollutiontreaty.org/ で、新たな国際協定を呼び掛ける企業宣言の確認ができます。WWF、エレンマッカーサー財団、BCGは、プラスチック汚染の解決に世界でリーダーシップを発揮している企業がこの宣言に参加することを呼びかけています。

BCGの西ヨーロッパ、アフリカ、南アメリカのソーシャルインパクト サステナビリティプラクティスリーダーのジェスパー・ニールセンは、「企業にとって、国際合意は、運営上の複雑さを軽減し、報告を簡素化し、プラスチックのバリューチェーンにおいて投資を誘発するものとなる」と述べています。

さらに、世界中で200万人近くの人々が国際協定の発足を呼びかけ、アフリカ、バルト三国、カリブ諸国、北欧諸国、 太平洋沿岸諸国、欧州連合を含む、国連加盟国の2/3以上が、新たな国際合意への参加を検討していると公式に宣 言しています。

▼エレンマッカーサー財団について

エレンマッカーサー財団は、イギリスに本部を置く、ごみ、汚染、気候変動など、現代における大きな課題解決に向けてサーキュラーエコノミーの構築を目指す慈善団体です。サーキュラーエコノミーは、ごみや汚染のない社会構築を設計し、製品や素材が使用し続けるようにし、自然のシステムを再生し、社会に恩恵をもたらします。エレンマッカーサー財団は、世界のデザイナー、企業、教育家、政策決定者とこの実現に向けて活動しています。より詳細な情報については、以下ウェブサイトをご参照ください。www.ellenmacarthurfoundation.org | @circulareconomy

▼ボストンコンサルティンググループ (BCG) について

BCG は、1963年に設立された企業戦略のパイオニアで、ビジネスや社会のリーダーが最も重要な課題に立ち向かい、最大の機会を得るために、協力をしています。今日では、複雑な変化を促し、組織の成長を可能とし、競争優位を築き、収益の向上を推進することで、クライアントの全面的な変容を支援しています。組織は成功のために、デジタルと人間の能力を統合させなければなりません。BCGは、産業と機能の双方に専門性を有し、改革を誘発する様々な考え方を持ち、技術、デザイン、企業ベンチャー、デジタルベンチャー、企業の存在意義などの分野で、最先端の経営コンサルティングにより課題解決を促進します。独自の協調的な形態で、幅広い企業のあらゆる組織レベルにおいて、クライアントが繁栄し続けるために結果をもたらします。